



平成29年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年2月8日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ボルテージ

コード番号 3639 URL <http://www.voltage.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 津谷 祐司

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部管轄 (氏名) 松永 浩

TEL 03-5475-8193

四半期報告書提出予定日 平成29年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年6月期第2四半期の連結業績(平成28年7月1日～平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年6月期第2四半期	4,775	△15.5	89	△58.3	115	△42.9	44	△55.3
28年6月期第2四半期	5,653	8.3	213	835.6	202	274.5	100	—

(注) 包括利益 29年6月期第2四半期 77百万円 (△19.4%) 28年6月期第2四半期 95百万円 (264.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年6月期第2四半期	8.81	8.76
28年6月期第2四半期	19.46	19.25

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
29年6月期第2四半期	4,678		3,767		80.5
28年6月期	4,905		3,868		78.9

(参考) 自己資本 29年6月期第2四半期 3,767百万円 28年6月期 3,868百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年6月期	—	0.00	—	15.00	15.00
29年6月期	—	0.00	—	—	—
29年6月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成29年6月期の配当予想は未定としております。

3. 平成29年6月期の連結業績予想(平成28年7月1日～平成29年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,500	△15.3	150	△71.7	150	△69.3	10	△95.2	1.96

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想については、本日(平成29年2月8日)公表いたしました「平成29年6月期 連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年6月期2Q	5,196,673 株	28年6月期	5,195,770 株
② 期末自己株式数	29年6月期2Q	91,528 株	28年6月期	228 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年6月期2Q	5,104,543 株	28年6月期2Q	5,165,992 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、緩やかな回復基調が続く中で、企業収益は高い水準にあるものの、改善に足踏みがみられました。一方、個人消費は、消費者マインドの持ち直しの動きがみられ、実質総雇用者所得は緩やかに増加するなど、持ち直しの動きがみられております。

モバイルビジネスを取り巻く環境は、平成28年3月末のスマートフォン世帯普及率は、従来型の携帯電話の普及率を初めて上回る67.4%となっております(注1)。また、モバイルコンテンツ市場は、平成27年は前年比7.3%増の1兆5,632億円となっております(注2)。

このような環境の下、当社グループは、基幹モデル(既存展開)の収益維持、基幹モデル(新展開)の規模拡大と収益化、新規モデルの早期収益化を目指し、事業を運営しており、当第2四半期連結会計期間より、区分ごとに取り組むべきことが明確になったことで、区分名を基幹シリーズ、新シリーズ、実験作へそれぞれ変更しております。

当第2四半期連結累計期間における売上は、主に基幹シリーズの減少が実験作・その他の増加を上回ったことにより4,775,733千円(前年同期比15.5%減)となりました。費用は、広告宣伝費を効率的に使用したこと等により大幅に減少しましたが、売上の減少を補てんするには至らず、営業利益は89,265千円(前年同期比58.3%減)となりました。また、為替差益が21,117千円発生したこと等により、経常利益は115,550千円(同42.9%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は44,945千円(同55.3%減)となりました。

事業区分別の業績は、以下の通りであります。なお、当第2四半期連結会計期間より、事業区分名を変更しておりますので、以下の前年同期比較については、前年同期の数値を変更後の事業区分名に組み替えて比較しております。

①基幹シリーズ

基幹シリーズは、恋愛ドラマアプリのうち、「F2P(注3)シリーズ」と「P2P(注4)シリーズ」が該当し、当第2四半期連結会計期間より、事業区分名を基幹モデル(既存展開)より変更しております。

主に「F2Pシリーズ」のソーシャル専門PF(注5)向けと「P2Pシリーズ」のOS系PF(注6)向けの減少が続き、売上高は3,445,011千円(前年同期比25.8%減)となりました。

②新シリーズ

新シリーズは、ターゲット層や制作技術を基幹シリーズから派生させたシリーズ群です。平成29年6月期は、「シーク(注7)シリーズ」「L10N(注8)シリーズ」が該当し、当第2四半期連結会計期間より、事業区分名を基幹モデル(新展開)より変更しております。

「L10Nシリーズ」において新規タイトルの不調等があったものの、「シークシリーズ」の拡大により、売上高は973,060千円(前年同期比0.0%減)となりました。

③実験作・その他

実験作は、ターゲット層や制作技術が基幹シリーズ、新シリーズとは異なるシリーズ群です。平成29年6月期は、「P2P DRAGON(注9)シリーズ」「F2P US REAL(注10)シリーズ」「男性向けサスペンスシリーズ」「パズルアクションゲームシリーズ」「モーション(注11)シリーズ」が該当し、当第2四半期連結会計期間より、事業区分名を新規モデルより変更しております。その他、当第2四半期連結会計期間にローンチした、新技術を用いたタイトルを含めております。

「男性向けサスペンスシリーズ」の拡大及び「パズルアクションゲームシリーズ」の積み上げにより、売上高は357,662千円(前年同期比883.1%増)となりました。

- (注) 1. 出所：内閣府経済社会総合研究所「消費動向調査（平成28年3月実施調査結果）」2016年4月8日発表
2. 出所：一般社団法人モバイル・コンテンツ・フォーラム「2015年モバイルコンテンツ関連市場規模」2016年7月25日発表
3. F2P：Free-to-Playの略称。基本プレイ無料・アイテム課金制のコンテンツ
4. P2P：Pay-to-Playの略称。ストーリー単位の個別課金制のコンテンツ
5. ソーシャル専業PF：GREE、Mobage、mixi、Ameba等のSNS PF
6. OS系PF：App Store、Google Play等のアプリマーケット
7. シーク：「ダウト～嘘つきオトコは誰？～」の仕様をベースに制作されるコンテンツ。従来の恋愛ドラマアプリとは一線を画し、ストーリーだけでなく調査や審判等の要素を持つ
8. L10N：北米市場向けアニメ絵であり、日本語版恋愛ドラマアプリを翻訳したコンテンツ。Localizationを意味する省略表記
9. DRAGON：北米市場向けアニメ絵であり、北米市場向けに作ったコンテンツ。北米向けにアレンジされたドラゴンロール寿司に由来。対ユーザー呼称AmeMix(アメミックス)
10. US REAL：北米市場向けリアル絵のコンテンツ(旧：USオリジナル)
11. モーション：株式会社ボルモで制作中のモーションタイプのコンテンツ。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産の部)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、4,678,872千円（前連結会計年度末比226,527千円減）となりました。

流動資産は、3,517,895千円（同188,030千円減）となりました。その主な要因は、売掛金が176,805千円減少したことによるものであります。

固定資産は、1,160,977千円（同38,496千円減）となりました。その主な要因は、ソフトウェア資産の減少により無形固定資産が31,803千円減少したことによるものであります。

(負債の部)

負債は、911,256千円（同126,095千円減）となりました。

流動負債は、911,256千円（同126,095千円減）となりました。その主な要因は、テレビCMの出稿費用の支払等により未払費用が86,270千円減少したことによるものであります。

(純資産の部)

純資産は、3,767,616千円（同100,431千円減）となりました。その主な要因は、自己株式の取得による減少99,942千円によるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末と比較して11,498千円増加し、2,249,299千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次の通りであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、未払費用の減少88,871千円、法人税等の支払82,803千円等があったものの、売上債権の減少179,768千円、ソフトウェア償却費127,260千円、税金等調整前四半期純利益113,733千円等があり、275,795千円の資金を得る結果（前年同期は175,657千円の資金を得る結果）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、コンテンツシステム開発等に伴う無形固定資産の取得による支出96,213千円、オフィス増床等に伴う有形固定資産の取得による支出48,962千円等により、145,600千円の資金を支出する結果（前年同期は261,250千円の資金を支出する結果）となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、新株の発行による収入324千円があったものの、自己株式の取得による支出99,942千円、配当金の支払77,654千円があったことにより、177,272千円の資金を支出する結果（前年同期は74,160千円の資金を支出する結果）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは平成29年6月期第3四半期以降も引き続き、「3年戦略（平成29年6月期から平成31年6月期）」に基づき事業を運営してまいります。また、新たなターゲット戦略として、従来ターゲットとしていたカジュアル層に加え、コア層向けの実験作の開発を進めてまいります。

平成29年6月期の連結業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間における業績の進捗状況等を踏まえ、平成28年8月15日付の「平成28年6月期 決算短信〔日本基準（連結）〕」で公表しました予想を修正しております。

詳細につきましては、別途公表いたしました「平成29年6月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当しませんが、当第2四半期連結会計期間において、株式会社ボルスタを新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成28年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,237,800	2,249,299
売掛金	1,290,622	1,113,816
前渡金	61,480	36,888
前払費用	81,252	66,775
繰延税金資産	32,475	39,418
その他	3,404	12,813
貸倒引当金	△1,109	△1,115
流動資産合計	3,705,926	3,517,895
固定資産		
有形固定資産	209,919	198,476
無形固定資産		
ソフトウェア	473,277	441,474
無形固定資産合計	473,277	441,474
投資その他の資産	516,276	521,026
固定資産合計	1,199,473	1,160,977
資産合計	4,905,400	4,678,872
負債の部		
流動負債		
買掛金	188,906	195,789
未払金	5,099	1,026
未払費用	603,545	517,274
未払法人税等	96,519	112,856
その他	143,280	84,309
流動負債合計	1,037,352	911,256
負債合計	1,037,352	911,256
純資産の部		
株主資本		
資本金	936,148	936,311
資本剰余金	901,748	901,911
利益剰余金	2,031,050	1,998,063
自己株式	△196	△100,139
株主資本合計	3,868,750	3,736,145
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	823	2,709
為替換算調整勘定	△1,526	28,761
その他の包括利益累計額合計	△702	31,470
純資産合計	3,868,047	3,767,616
負債純資産合計	4,905,400	4,678,872

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年7月1日 至平成27年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年7月1日 至平成28年12月31日)
売上高	5,653,043	4,775,733
売上原価	2,153,646	2,030,565
売上総利益	3,499,397	2,745,168
販売費及び一般管理費	3,285,532	2,655,903
営業利益	213,865	89,265
営業外収益		
受取利息	348	329
受取配当金	86	78
助成金収入	8,643	-
為替差益	-	21,117
雑収入	687	4,770
営業外収益合計	9,766	26,295
営業外費用		
為替差損	21,423	-
雑損失	-	9
営業外費用合計	21,423	9
経常利益	202,208	115,550
特別損失		
固定資産売却損	-	1,817
特別損失合計	-	1,817
税金等調整前四半期純利益	202,208	113,733
法人税、住民税及び事業税	81,464	94,097
法人税等調整額	20,230	△13,641
法人税等の更正、決定等による納付税額又は還付税額	-	△11,668
法人税等合計	101,695	68,787
四半期純利益	100,513	44,945
親会社株主に帰属する四半期純利益	100,513	44,945

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年7月1日 至 平成27年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年7月1日 至 平成28年12月31日)
四半期純利益	100,513	44,945
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△732	1,886
為替換算調整勘定	△4,113	30,287
その他の包括利益合計	△4,845	32,173
四半期包括利益	95,668	77,119
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	95,668	77,119

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年7月1日 至 平成27年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年7月1日 至 平成28年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	202,208	113,733
減価償却費及びその他の償却費	85,419	64,276
ソフトウェア償却費	124,870	127,260
賞与引当金の増減額 (△は減少)	6,060	-
株式報酬費用	2,582	-
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△36	6
固定資産除売却損益 (△は益)	-	1,817
受取利息及び受取配当金	△435	△407
為替差損益 (△は益)	1,090	△34,051
売上債権の増減額 (△は増加)	△83,006	179,768
仕入債務の増減額 (△は減少)	17,853	6,322
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△31,508	△55,747
未払費用の増減額 (△は減少)	△8,321	△88,871
その他	△41,940	32,416
小計	274,837	346,523
利息及び配当金の受取額	435	407
法人税等の支払額	△99,615	△82,803
法人税等の還付額	-	11,668
営業活動によるキャッシュ・フロー	175,657	275,795
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△20,640	△48,962
無形固定資産の取得による支出	△203,270	△96,213
敷金及び保証金の差入による支出	△37,340	△423
投資活動によるキャッシュ・フロー	△261,250	△145,600
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	1,987	324
自己株式の取得による支出	-	△99,942
配当金の支払額	△76,147	△77,654
財務活動によるキャッシュ・フロー	△74,160	△177,272
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3,922	58,576
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△163,676	11,498
現金及び現金同等物の期首残高	1,820,557	2,237,800
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,656,881	2,249,299

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成28年8月15日開催の取締役会決議に基づき、自己株式91,300株の取得を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において自己株式が99,942千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が100,139千円となっております。

(セグメント情報等)

当社グループは、モバイルコンテンツ事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。